

「延世大学派遣参加報告書」

京都大学人間・環境学研究科1年 深田 明

①学習成果

今回私がこのプログラムに参加した動機は大きく二点ある。第一に韓国語能力を高めること、第二に現在の韓国社会についての理解を深めることである。

これらの動機は主に、私の母方の家族が韓国人であることから、私は小さい頃から韓国と日本を渡り両国の文化の違いに常に関心を抱かざるを得なかったというところからきている。学習成果の振り返りの前に、こうした個人的な経験をまず記しておきたい。私が韓国について理解を深めようとするとき、それは人生の半分以上の時を日本で生きてきた母の韓国での思い出話や政治への意見を通してであった。しかし数年前、母にとって十年以上ぶりの韓国へ家族に会いにでかけた時、母は母国語であるにもかかわらず旅先で日本語を話してしまい、電車も度々迷っていた。日本に居すぎってしまったのだ。離婚や度重なる離職によりVISAが不安定な日本での生活に母はしばしば不満を抱いていたが、母は懐かしい故郷に帰ることができたという喜びと同時に、変化の激しい韓国社会にもう自分の居場所はないんだと自覚し、日本に帰国する際にはどこか寂しげな表情であった。

こうした経験を通して、私は大学院で日韓をフィールドとした研究をしていないものの、心の奥では常に韓国への興味関心が強くあった。私にとって韓国を理解することとは、母を理解することでもあったからだ。しかし、変わりゆく韓国社会についていくには母との家庭内言語として韓国語にふれるのみではならず、韓国に赴き、韓国の知人と語り合う機会を増やすことがなによりであると痛感していた。学部時代から延世大学とのプログラムは知っていたものの、金銭的な面で諦めていたのだが、今回のオンラインでの開講が、金銭的な事情を抱え、かつ大学院生で時間の制約がある私にとってはむしろ転機となった。

第一の動機である韓国語能力の向上については、教え方が丁寧かつ的確で、すてきな先生に巡り会えたことで新しく得る知識ばかりであった。この二週間の韓国語の授業・予習・復習を通してノート二冊を使い切った。語学に思い切り打ち込める時間をとる機会は、年齢を重ねれば重ねるほどなくなってくる。春休みのプログラムに参加して毎朝9時から韓国語をみっちり勉強する日々は楽しく、今後の韓国語学習はどのようなステップで行うか見通しも立てることができた。

第二の動機である韓国社会への理解について、オンラインでの授業では、クラスのみなどと語り合う時間や触れ合う時間がない点では対面より韓国を知る機会が不足していると感じるが、むしろオンライン開講であることによって参加を決めた私はオンラインでも得られるものを十分に得ようと積極的に活動した。授業ではまず一番に発言し、クラスの雰囲気や和らげるように努力した。クラスで扱ったテキストや先生の発言から、韓国ではどういった価値観があるのかなど勉強になった。例えば、「体に悪いとよくないから、ご飯を残した方がいいよ。」という例文があったが、日本なら「最後まで食べないともったいないよ。」となるだろうと個人的に考えることがあった。このように、座学の授業でも垣間見える韓国文化があったように思う。

②プログラム内容と経験

延世大学語学堂にて4級のコースに進学し、正規過程の学生と共に約2週間の期間、韓国語を学んだ。他のプログラム内容としては、延世大学の授業で村上春樹の短編「納屋を焼く」を読み、韓国映画「Burning」との比較をする発表を行ったことや、韓国映画と映画の背景となる韓国社会・文化を学ぶ授業を通して韓国の学生から直接話を聞くことなどがあり、実りのある内容であった。

③進路への影響について

進路への影響は特にはないが、これからも自身の専門の垣根をこえて日韓の問題に取り組んでいこうと思う。